

新潟県花き振興協議会（新潟県）

協議会構成団体：新潟県花き球根振興協議会、新潟県花木振興協議会、全国農業協同組合連合会新潟県本部、(株)新花、新潟県グリーンサービス協会、(一社)JFTD新潟支部、新潟農業・バイオ専門学校、新潟県、他

対象品目

切り花：チューリップ
ユリ
シャクヤク



< 取組内容 >

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- ・花きの消費量が長期的な減少傾向にある中、県内外から多くの人が訪れる道の駅において、季節の花を使った、コサージュや花冠など気軽に作れる作品のワークショップや、チューリップ切り花コンテストなどを行い、花きの需要拡大、県産花きのPRを図った。
- ・県産花きの新たな需要開拓を目的として、実需者向け商談会を実施した。

- ・来場者アンケート（401名）の結果、「花きの購入頻度を増やしたいか」という問いに、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせて92.5%となり、花きの購買意欲の向上につながった。

- ・商談コーナーでは、展示されている花きアレンジメント作品を作成した生花店に関して、「詳しく知りたい」、「案内してほしい」という商談が2件あった。



ワークショップの様子



生産者によるチューリップ切り花コンテスト受賞作品

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

新潟県の主要花き品目であるユリ切り花では、近年の生産コスト増大により、さらなる低コスト・省エネルギー栽培が求められている。

これまで、LEDを用いた光環境制御（長日処理）が、ユリ切り花の品質を低下させずに栽培期間を短縮できることを明らかにしてきたが、より簡便な暗期中断処理を検討した。さらに、産地での光環境制御の実証を行った。

暗期中断処理では、日長延長処理と比較して到花日数が1～2日早くなり、時間設定が容易でより安定した効果が得られた。これにより、暗期中断処理は、無処理区と比較して、4～7日程度到花日数が早くなった。

また、県内3産地で光環境制御の実証を行ったところ、'ルビアーノ'、'カサブランカ'および'プレミアムブロード'等複数の品種で、3～14日程度の暗期中断処理による到花日数の短縮効果が得られた。

< 写真の説明 >

①光照射の様子、②無処理、③日長延長処理、④暗期中断処理
(品種：カトーネ、撮影日：11月22日)



暗期中断処理が最も到花日数が早くなる

< 今後の取組予定 >

- ・各種イベント開催を通じて家庭でも取り入れやすい花き展示を行い、花のある暮らしの提案、若年層や新規購入層等、花きの購入層の裾野の拡大を図る。
- ・実証した技術の普及を進め、県産ユリ切り花生産の低コスト化につなげる。

とやま花き振興協議会（富山県）

協議会構成団体：JAあおば花き出荷組合、株式会社富山中央花き園芸、あおば農業協同組合、全国農業協同組合連合会富山県本部、富山県農林水産部農産食品課、富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター、富山県農林水産部富山農林振興センター

対象品目

切り花：シャクヤク、アリアム、アガパンサス、カラー、ぎぼうし、仙台はぎ、ヒオウギ、ストック、チューリップ切り花等
切り枝：啓翁桜



シャクヤク



ストック

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

【目的】集出荷作業のデジタルトランスフォーメーション（DX）化により、産地から県内市場を介した県外出荷先市場までの流通にかかる労働時間を削減し、流通の効率化、生産・販売体制の強化を図る。また、県外市場・実需からの引き合いが強い品目について、出荷箱を台車輸送に対応した仕様に変更することで、荷役に係る人手・時間を削減する。

・県内外産の花き流通に係る現状や課題を把握するため、市場等の流通業者との出荷検討会・出荷反省会を開催し、とやま花き振興協議会で課題解決に向けた対応を協議した。

・荷受け→検査→分荷等の集出荷作業に係る労働時間を削減するため、集出荷情報をFAXと手入力による管理からデジタル化した集出荷システムへ変更するための、システム導入実証を行った。

・人手での荷積み・荷下ろし作業にかかる荷役時間の削減と積載効率の向上効果を目的に、現在の出荷箱を、全国的に利用されているフル台車での輸送に対応した外装規格に変更するための新規格出荷箱作成および積載検証を行った。

< 取組の成果 >

市場等の流通業者との
出荷検討会集出荷DX化実証
(産地)集出荷DX化実証
(市場)

フル台車への積載実証

・市場等との情報交換の結果、物流の2024年問題により、入荷が減少または入荷元産地を変更した品目があり、複数の品目について、現在取引のある県外市場からの出荷要望が高いことが分かった。

・出荷規格について、ホームユース等需要の変化から最高階級を見直し（80→70cm）、よりコンパクトで積載効率の良い出荷箱での出荷が望まれていることが分かった。

・産地では、生産者がバーコード付きラベルを出荷箱に貼り、それを読み取ることで出荷データをデジタル化した。システム上で出荷データから帳票を作成し、産地での出荷検査を効率化した。検査後のデータをCSV出力し、市場と共有した。

・市場では、産地から送られた出荷データを取り込み、出荷先の分荷情報をシステム入力により行った。

・DX集出荷システムにより、手書きや手入力による出荷情報作成がデジタル化されたことで、出荷作業が短縮・省力化されることを、集出荷作業に従事する生産者やJA、市場を交えた実証により共有した。

・湿式縦箱は、高さを従来の900→780mmに、横箱は、高さを225→195mmに変更し、作成したところ、フル台車への最大積載箱数は、湿式縦箱が最大18→24箱、横箱が最大32→36箱、積載可能であることが分かった。

< 今後の取組予定 >

・今後も継続して市場との情報交換の場を設けることで、実需の変化にいち早く対応し、優位販売に繋げる予定。

・実証した集出荷システムを令和7年に本格導入し、DX化した集出荷作業において、最も効率的な運用方法を検討する。

・フル台車対応の新たな出荷箱については、富山市内または県内の他花き産地でも利用できるデザインとしたため、今後JAあおば管内以外でも利用される見込み。

石川県花き振興地域協議会（石川県）

協議会構成団体：石川県花き園芸協会、金沢総合花き株式会社、株式会社金沢花市場、石川県花商事協同組合、金沢公設花き小売商組合、石川県生花小売商協同組合、北陸園芸商組合、（一社）JFTD石川支部、（公社）NFD石川県支部、全国農業協同組合連合会石川県支部、金沢市公設花き地方卸売市場、石川県農林水産部

対象品目

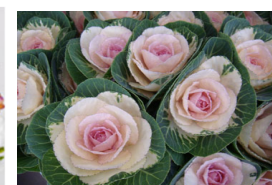
切り花：エアリーフローラ

切り花葉ボタン

その他：県産花き



エアリーフローラ（フリージア）



切り花葉ボタン

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

[流通の効率化に資する技術実証]

- ・切り花葉ボタンは、正月向けの花材として人気が高く、需要が増加しており、県産品は関西市場を中心に出荷されているが出荷後の鮮度の低下に伴い、下位葉に黄化が発生し、日持ちが悪くなることが課題となっていることから、「鮮度保持梱包材」が切り花葉ボタンの品質保持に及ぼす影響について調査を行った。

[花き流通の効率化の先進地事例視察]

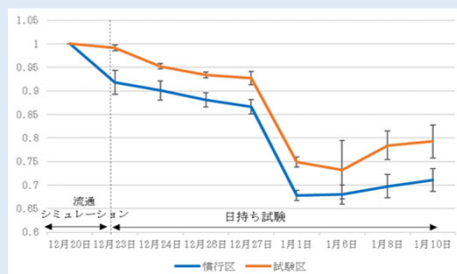
- ・物流の2024年問題で、将来的にストックポイント等の整備等による流通の効率化が必要となる可能性があることから、既にストックポイントを整備している、東京共同荷受、永井（株）物流センターの視察を実施。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

[花き消費拡大のための社会人向けセミナーの開催]

- ・石川県内の花き購入金額の増加を図るため、中学生以下の子供を持つ社会人を対象に、エアリーフローラのアレンジメントセミナーを開催（子供も同伴可能）。

- ・鮮度保持梱包材（フレッシュライナー）を使用することで、出荷箱内の湿度が高く維持され、輸送期間中の生体重の減少を抑制していた。これにより、開封時の萎れが軽減され、日持ち日数が長くなる傾向がみられた。

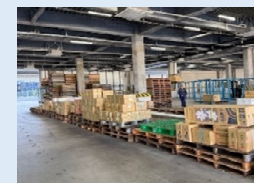


相対切り花重の推移
(水揚げ時の切り花重を1とした時の相対値で表示)

- ・ストックポイントの運営・管理において、コストを抑えるために、施設の利用時間を重ならないようにして、他業種と共同で利用している事例や集出荷体制等について情報を得た。



梱包時の様子



ストックポイントの様子

- ・エアリーフローラアレンジメントセミナーは、合計で3回開催した。令和6年度能登半島地震の被災地でもアレンジメントセミナーを開催した結果、参加者からは「花に触ることで心が癒された。今後は自宅や避難所に飾りたい」との意見をいただき、セミナー前後で、花を購入した方の割合が、5.9%増加した。
- ・アレンジメントセミナー開催後のアンケートでは、新しく花器を購入したり、セミナーで利用した花器に新しい花を飾るようになった等、購入金額の増加が期待できる結果となった。



アレンジメントセミナーの様子

< 今後の取組予定 >

- ・引き続き、県産花きの品質保持に向けた実証を行うとともに、物流の2024年問題に対応した流通の効率化の取組について協議会内で検討していく。

福井県花き連絡協議会（福井県）

協議会構成団体：県内各花き生産組織、福井中央花卉市場、花一（仲卸）、福井県花商協同組合（小売）、福井県華道協会、日本フラワーデザイナー協会福井県支部、ふくいの園芸福祉研究会、日本生花通信配達協会福井県支部、フジテレビフラワーネット福井県支部、福井県農林水産部、JA福井県 他

対象品目

切り花：キク
トルコギキョウ



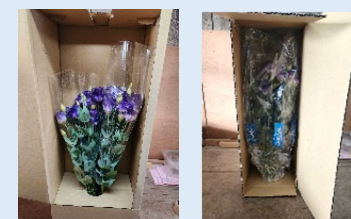
<取組内容>

<取組の成果>

1. 花き流通の効率化等の取組

- トルコギキョウにおいて、流通コストを低減するため、水容器付きの専用箱出荷から鮮度保持包装材を活用した汎用箱出荷への転換による日持ち性への影響について、生産者レベルでの実証を行った。

- 鮮度保持包装材を活用した汎用箱出荷では、現行と比較して日持ち性の若干の低下がみられたが、近隣市場への出荷には活用できることが示唆された。
- 生産者レベルでの実証で、出荷先の市場、実需者から品質に係るクレームはなかったが、導入を受け入れる市場が限られたことが課題となった。
- 技術の導入により、輸送箱のコストを削減でき、トルコギキョウの流通経路間における資材費は7.3%低減した。



（左）水容器付き専用箱
（右）鮮度保持包装資材+汎用箱

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- みどりと花の県民運動大会において、50代以下の社会人を対象としたフラワーアレンジメントや寄せ植え体験を開催し、花の魅力や楽しみ方を伝えることで消費拡大プロモーション活動を行った。
- 県内の学校や公民館等と連携しながら、社会人、学生等の若い世代を対象にしたフラワーアレンジメントや寄せ植え等の花育体験を実施した。

- イベント実施直後にアンケート調査を行ったところ、参加者277名のうち270名の購買欲が喚起され（97%）、県産花きの利用促進が啓発された。
- 花育体験の取組直後に参加者121名に対して実施したアンケート調査の結果では、花育体験の満足度は95%であった。また、取組後にアンケート調査を実施したところ、117名から回答があり、月の平均購買回数は0.92回（花育体験前）から1.34回（花育体験後）に増加した。



4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 実需者から要望のある彼岸向けの短茎ギクを導入するため、需要期出荷が可能な品種について、病害抵抗性に重きを置いた選抜実証を行った。
- トルコギキョウの安定した生産を目指すため、立枯病に耐性を有するとされる品種について、現地適応性や病害抵抗性に関する栽培実証を行った。

- 短茎ギク赤2品種、白3品種、黄2品種、計7品種の中から、現地適応性がありかつ、病害抵抗性に優れた白1品種、黄1品種、計2品種を有望品種として選定した。しかしながら、開花期については単年度の評価であることから現地での複数年栽培時における影響等について継続して検討する必要がある。
- トルコギキョウピンク3品種、青2品種、計5品種の中から、現地適応性がありかつ、立枯病抵抗性に優れたピンク1品種、青1品種、計2品種を有望品種として選定した。しかしながら、単年度の評価であることから、現地での複数年栽培時における影響等について継続して検討する必要がある。



選定されたトルコギキョウの有望品種

<今後の取組予定>

- 生産者への周知を進めると同時に、市場へも周知していくことで更なる導入を図る。
- 花育については、継続して事業効果の確認を行っていく。
- 品種選定については、次年度以降、選定した4品種の栽培実証を継続して実施し、開花期や病害抵抗性について更なる検討を行う。